

事業の計画が実施中も妥当であるか、当初想定した有効性が発現するかなどの課題を検証するため、中間レビューを実施しています。

中間レビューの概要

中間レビューは、借款契約締結後5年目の段階で、事業計画の妥当性は保たれているか、事業完成後に当初予定されていた通りの有効性が発現するか、有効性やインパクトに影響を与える要素の実施状況は順調かなどを検証するために行うも

のです。2005年度は10事業を対象に行い、事業の実施状況をふまえ、事業目標達成のための改善策を含む教訓・提言等について事業実施機関と協議しました。

結果一覧

国名	事業名	中間レビュー結果	
中国	甘肅省小水力発電所建設事業	甘肅省張掖地区および龍南地区において、2つの小水力発電所建設を通じて甘肅省の電力安定供給を図る本事業は、引き続き重要度が高い。本事業は2005年9月に完成しており、水量が確保されれば2006年に有効性は達成できる見込みである(送電端電力量(350GWh)、最大出力(72MW))。甘肅省のなかでも貧困地域である事業対象地域では、電力供給が安定することで貧困緩和に寄与することが期待されているが、今後、事後評価に向けて定量的な効果の把握を検討する必要がある。	 完成した漢坪咀水力発電所
	長沙市上水道整備事業	湖南省長沙市河東区において、第8浄水場の建設を通じて給水能力の向上を図る本事業は、引き続き重要度が高い。本事業の完成により2005年12月、同浄水場の50万m ³ /日の給水能力が増強された結果、同区では132万m ³ /日の給水能力が確保されており、これは2008年の同区の需要予測125万m ³ /日に対応するものとなっている。また、給水人口は150万人と完成時の目標を達成しており、現時点で本事業の有効性の発現は問題ないと判断される。	 完成した長沙市第8浄水場
タイ	第2メコン国際橋架橋事業	タイ～ラオス間の国境を形成するメコン川において第2メコン橋の建設を通じて、東西回廊の接続を図る本事業は、引き続き重要度が高い。本事業は、2006年12月に完成している。本事業により、渡河手段がフェリーに限られボトルネックであった国道9号線ルート、タイ～ラオス国境のメコン川部分が橋梁で接続される。事業実施前の調査では、低成長、高成長のケースにおいて片側交通量の2010年予測が1日当たり各416台、917台であったのに対して、2004年3月の調査では事業完成後の2009年両側交通量が同859台と予測されており、有効性の発現に問題はないと予想される。一層の有効性発現のためには商業用交通権の相互交換、通関手続きの簡素化等、交通円滑化を推進する体制の構築が求められる。	 完成した第2メコン国際橋
	農地改革地区総合農業開発事業	東北タイ農地改革地区において、農業用ため池建設および周辺インフラ整備を通じて総合農業の普及を図る本事業は、引き続き重要度が高い。中間レビュー時点で事業は実施中であり、2007年10月完成予定である。ため池の整備数等は、共有地の利用に関する問題や手続きの遅延により大幅な見直しが行われたが、中間レビュー時点で対象33村中26村で農村ネットワークが構築され、8つの村でコミュニティマーケットが開設されている。有機農業による需要の高まりを受け、2010年1月までに18のマーケットが開設される予定等、農民の生活改善、農民グループの活動を通じたコミュニティ全体の能力強化が図られており、有効性の発現に問題はないと予想される。	 マイクロ灌漑による野菜栽培

国名	事業名	中間レビュー結果	
ベトナム	国道1号線バイパス道路整備事業 クーロン（カントー）橋建設事業	メコンデルタ地域の中核都市に位置するカントー市において、ハウ川を渡河する橋梁およびバイパス道路建設を通じて、経済成長に伴う交通需要の伸びに対応する本事業は、引き続き重要性が高い。中間レビュー時点で事業は実施中であり、2008年12月に完成予定である。 年間平均交通量は、事前評価時予測値約1.8万台/日に対して、中間レビュー時実績値は約2.9万台/日と約2倍増であり、本事業の完成によりフェリーによる渡河待ち時間（最大50分）が解消されることが期待される。また過去6年間の対象地域の登録車両台数や地域内総生産の伸びも順調であり、完成時の有効性の発現は問題ないと予想される。なお、クーロン橋は、将来の更なる交通量増大にも対応できるデザインとなっている。	 橋がないため、人々の渡河手段となっているフェリー
スリランカ	キャンディ上水道整備事業	キャンディ市および北部において、給水施設整備を通じ、急速な人口増加に伴う深刻な給水の需給ギャップ緩和を図る本事業は、引き続き重要度が高い。中間レビュー時点で事業は実施中であり、2007年1月に完成予定である。事業完成により、給水量は約3.7万m ³ /日増加し、約14.7万人が給水を受ける予定である。キャンディ圏における給水時間は24時間/日に拡大する予定であり、給水人口に見合った有効性の発現が期待される。	 マハヴェリ川の水道管を通す橋（建設中）
	小企業育成事業（2）	小・零細企業に対し低利の一般ローンおよび技術移転ローンの供給を通じて、生産基盤の整備・拡大および技術・財務面のトレーニング等を図る本事業は、引き続き重要度が高い。本事業は2006年3月に完了しており、小・零細企業の生産・製造設備の新設および設備増強に伴い必要となる長期運転資金を提供する一般ローン枠の実施により、借入企業における雇用創出率は事前評価時予測値約1.4万人に対し約2万人と計画を4%上回る成果を収め、事業の有効性が十分に発現している。他方、融資枠は小さいが、技術向上を目的とするトレーニング実施等に必要資金を提供する技術移転ローンの消化率は18%と低い。リボルビング・ファンドおよび技術移転ローンの有効活用の促進が望まれる。	 飲料水製造業者の水質検査機器
モロッコ	アガディール上水道整備事業	アガディール都市部を中心とする給水地域を対象に、新規給水施設整備を通じて水需要増加に対応する本事業は、引き続き重要度が高い。本事業の水源となるムーレイ・アブドラ・ダムは2002年3月に完成し、2006年6月現在の貯水率は85%と良好である。2005年時点での計画値および実績値を比較すると、給水人口は、計画値64.4万人（2001年～2005年で平均4.2%の成長率）に対し実績値58.9万人（2001年～2005年で平均9.1%の成長率）、水道普及率が計画値72%に対して実績値89%と上回っている。平均給水量もほぼ計画通りの値を達成しており、本事業の有効性の発現は問題ないと予想される。	 建設中の取水施設
	地方給水事業（2）	モロッコ中部3県（アジラル県、ベニメラル県、ケニフラ県）の地方村落において、給水施設整備を通じて安全な水確保を図る本事業は、引き続き重要度が高い。旱魃の影響で2002年に計画値の変更がなされ、本事業の裨益村落・人口数は196村落（約18.8万人）から、200村落（約15万人）となった。2006年5月現在で106村落（約7.6万人）に対して水利組合の組織化等の啓蒙活動と給水施設の整備が進められており、うち91村落（85.9%）で水利組合が活動中、41村落（39%）で給水サービスが始まっている。今後、本事業では啓蒙活動チームの増員等実施体制の強化を図りながら、水利組合の組織化の加速と彼らの給水サービス実施能力の向上に力を入れる予定である。本事業の有効性は、一定の効果が発現すると予想されるが、最終的な計画値の達成は今後の進捗を注視する必要がある。	 完成した共同水栓を使う人々

外部評価者

外部評価者（評価委託先）	略歴
種田 博 (OPMAC)	大阪大学経済学部経済学科卒業。2004年より現職。開発事業関連調査への従事経験多数。専門は、プロジェクト監理。
黒田 泰久 (OPMAC)	名古屋大学経済学部経済学科卒業。1995年より現職。開発事業関連調査への従事経験多数。専門は、経済・財務分析。
宮崎 慶司 (OPMAC)	イーストアングリア大学大学院開発学部および国際基督教大学大学院行政学研究科修了。1996年より現職。開発事業関連調査への従事経験多数。専門はODA評価（政策評価・事業評価）、経済・社会分析、人的資源開発。

※ 50音順、敬称略